

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）ピアレビュー報告書（案）

評価対象組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準1	理念・目的
-----	-------

総評
<p>0101 大学の基本理念・使命・教育目的をふまえ、人文系諸科学と社会系諸科学を架橋する研究科の独自性を明示した上で、各専攻の教育研究上の目的を明確に設定している[0101a][0102a]。</p> <p>0102 研究科及び各専攻の教育研究上の目的は、研究科 HP や学生便覧その他の媒体で周知しており、社会に対して公表していることが確認できる[0101a][0102a]。</p> <p>0102 研究科（各専攻）の目的や育成する人間像をより効果的に周知していく方法（適切な媒体）については、今後のさらなる検討が望まれる[0101a][0102a]。</p>
長所・特色
<p>0102 人文系諸科学と社会系諸科学を架橋する研究科の独自性が表記され、教育研究上の目的などについて、HP、学生便覧で適切に明示して教職員および学生に周知するとともに、社会に対しても公表している点は評価できる[0101a][0102a]。</p>
留意点
<p>* 各項目に留意点レベルを記入</p> <p style="text-align: center;">【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項</p>
<p>0102 研究科（各専攻）の目的や人間像を示す媒体が学部段階と比較して限られているため、より効果的な周知方法（適切な媒体）を検討することが望まれる[0101a][0102a]。【B】</p>

根拠資料 No.		ピアレビュー受審時に追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0102	B	大学院パンフレット 2020（該当箇所 p24）	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

ピアレビュー委員会（第 1 部会）

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）ピアレビュー報告書（案）

評価対象組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 2	内部質保証
------	-------

総評	
0203	自己点検・評価委員会は専攻主任連絡会がその機能を兼ねていることが確認できる。[追 02]
0203	このピアレビュー受審を除けば、外部評価をもとにした自己点検・評価の取り組みは行われていない。
長所・特色	
0203	専攻主任連絡会が研究科の自己点検・評価委員会の機能を兼ねていることが確認できる。[追 02]
留意点	
	*各項目に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0203	内部質保証は、自己点検・評価や外部評価を実施し、それをもとに PDCA サイクルを回す仕組みを組織内に構築することが基本である。専攻主任連絡会が自己点検・評価委員会の機能を兼ねていることは確認できるが、専攻主任連絡会にその機能についての規定が確認できない。自己点検・評価に関する組織における位置づけを明確にする必要がある。【B】

根拠資料 No.		ピアレビュー受審時に追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0203	c	2019・2020 年度自己点検・評価委員（国際人間学研究科）	○
0203	d	2019 年度第 2 回専攻主任連絡会議議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度 (対象年度 : 2018~2019 年度) ピアレビュー報告書 (案)

評価対象組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 4	教育課程・学習成果 (1)
------	---------------

総評	
0401	博士前期課程・後期課程とも、専攻ごとの特色を明示した明確な DP を設定し、大学 HP で公表している [0401a]。
0402	博士前期課程・後期課程とも、専攻ごとの特色を明示した明確な CP を設定し、大学 HP で公表している [0401a]。
0403	博士前期課程・後期課程とも、専攻ごとの CP に基づいた教育課程を体系的に編成している [0403a]。
0403	学生が研究者あるいは社会人として自立できるよう、丁寧に個別指導している点は確認できるが、教員の個別指導状況については、各専攻だけでなく、研究科全体で共有していることは確認できない [0403b]。
長所・特色	
0403	教育課程の編成・実施の方針 (CP) に基づき、各専攻にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している [0403a]。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項
0403	研究科として体系的な教育課程の編成・実施を確保するため、教員の個別指導状況について専攻間でのさらなる組織的な連携が望まれる [0403b]。【B】

根拠資料 No.		ピアレビュー受審時に追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0402	a	2019 年度大学院生学生便覧 (該当箇所 p17-20)	○
0403	c	国際人間学研究科各専攻履修モデル	○

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料 △ : 現部署で保管

2020 年度 (対象年度 : 2018~2019 年度) ピアレビュー報告書 (案)

評価対象組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 4	教育課程・学習成果 (2)
------	---------------

総評
0404 学生の研究成果を発表する場として「院生の力」を年間 2 回公開で実施し、各人の研究の進捗状況を確認するとともに、教員や他の学生との質疑応答を通して、自分の研究を客観化する機会としている [0404a]。 0404 学生の研究成果を雑誌 Glocal (年 2 回発行) に掲載し、広く公表している [0404b]。 0405 学位審査の規準や方法は各専攻の内規で明確化し、その運用状況については専攻主任連絡会で点検している [0405a] [0405b]。
長所・特色
0404 研究発表会「院生の力」を定期的に開催し、院生が自分の研究を客観化する機会としているのは評価できる [0404a]。 0404 学生の研究成果を国際人間学研究科レポート Glocal に掲載し、公表している点は評価できる [0404b]。
留意点
*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0405 学位審査の規準や方法について、専攻ごとの特徴を尊重しながら、研究科としての統一性を維持できるよう、専攻主任連絡会における点検だけでなく、更なる措置が望まれる [0405a] [0405b]。【B】

根拠資料 No.		ピアレビュー受審時に追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0404	c	中部大学におけるシラバス第三者点検実施要綱	○
0404	d	シラバス [研究指導 A]	○
0405	c	シラバス [研究指導 A]	○
0405	d	2019 年度大学院学生便覧 (p. 108)	○
0405	e	2019 年度大学院学生便覧 (p. 112)	○

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料 △ : 現部署で保管

ピアレビュー委員会（第 1 部会）

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）ピアレビュー報告書（案）

評価対象組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 4	教育課程・学習成果 (3)
------	---------------

総評
<p>0406 学会発表や学会誌への論文掲載を成果の把握に利用しているが、大学院の性格上、学生の日常的な学習成果について共通の測定指標を設定することはむずかしいため、指導教員が個別に把握し、指導を行っている [0406a] [0406b]。</p> <p>0406 院生の研究成果発表の機会は確保しているが、アセスメント・テストやルーブリック評価は大学院の性格になじまず実施していないので、これに代わる評価方法の導入は検討の余地がある。</p> <p>0407 各教員が毎年度初頭に「教育活動重点目標・自己評価シート」を提出して重点目標を設定し、これを学部長・学長が点検する一方、年度終わりには同シートに自己評価を記して提出し、それを同様に点検している [0407a]。</p>
長所・特色
特になし。
留意点
<p>* 各項に留意点レベルを記入</p> <p style="padding-left: 40px;">【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項</p> <p>0406 学習成果の測定方法の検討について、研究科全体としては学習成果の把握・評価のための体制が十分に整っていないため、組織的に把握・評価するための方法の検討・導入が望まれる [0406a] [0406b]。【B】</p> <p>0407 教育課程及びその内容・方法の適切性について、年度ごとの「教育活動重点目標・自己評価シート」に加え、学期ごとの定期的な自己点検・評価の実施も望まれる [0407a]。【B】</p>

根拠資料 No.		ピアレビュー受審時に追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

ピアレビュー委員会 (第 1 部会)

2020 年度 (対象年度 : 2018~2029 年度) ピアレビュー報告書 (案)

評価対象組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 5	学生の受け入れ
------	---------

総評	
0501	博士前期課程・後期課程とも、専攻ごとに AP、CP、DP を明確に定め、大学 HP、入試要項に公表している [0501a]。
0501	学外も含めて、独自に 3 回の大学院入試説明会を開催し、入学定員確保に努めている [0502a]。
0503	収容定員を満たすために努力していることは確認できるが、定員を満たさない状態が続いている [0503a]。
0504	海外の大学と学術交流協定の締結をもとに大学院留学生の受入れに努めていることが確認できる。
0504	内モンゴル大学との学術交流協定にもとづく大学院留学生の受入れで成果をあげていることが確認できる [0504a]。
0504	入学定員を満たすための努力は認められるが、定員確保のための方策を検討する組織が確認できない。
長所・特色	
0501	博士前期課程・後期課程とも、専攻ごとに AP、CP、DP を明確に定め、大学 HP、入試要項に公表している [0501a]。
0501	学外も含めて、独自に 3 回大学院入試説明会を開催し、入学定員確保に努めている [0502a]。
0504	内モンゴル大学との学術交流協定に基づく大学院学生の留学生の受入れに努めていることは評価できる [0504a]。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項
0503	収容定員を満たすために努力していることは理解できるが、定員を満たさない状態が続いている。学部段階から、進路の選択肢に大学院進学があることを学生に周知するなど、組織的検討と取り組みが必要である [0503a]。 【B】
0504	内モンゴル大学に限らず、海外の大学との交流協定を活かし、大学院に留学する留学生を確保する方策を検討する必要がある。【B】
0504	入学定員を満たすための努力は認められるが、定員確保のための方策を組織的に検討する体制が必要である。【B】

根拠資料 No.		ピアレビュー受審時に追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0504	b	2019 年度国際人間学研究所「持続可能な観光」報告会	○

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料 △ : 現部署で保管

ピアレビュー委員会 (第 1 部会)

2020 年度 (対象年度 : 2018~2019 年度) ピアレビュー報告書 (案)

評価対象組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 6	教員・教員組織
------	---------

総評	
0602	法令基準を上回る人員が配置され、明確に定められた担当資格基準に従って適切に運営されており、広範な領域・分野の教員配置がなされている [0602a] [0603a]。
0604	教員の研究発表会が定期的に行われ、その成果を「Glocal」に掲載し、教員間の相互理解を深め、質向上のための FD 活動になっている [0604a、0604b]。
0605	教員組織の適切性について、国際関係学部と人文学部という 2 つの学部を基礎とする研究科であり両者のバランスを考慮した仕組みを基本に考えられていることが確認できる [0602a]。
0605	広範な分野や方法論の多様な教員配置がなされており、本研究科の特徴となっている [0602a]。
0605	教員組織の適切性について、定期的に自己点検を行い、その結果を改善につなげていく仕組みが確認できない。
長所・特色	
0602	0603 法令基準を上回る人員が配置され、明確に定められた担当資格基準に従って適切に運営されている [0602a] [0603a]。
0604	教員の研究発表会が定期的に行われ、その成果を「Glocal」に掲載し、教員間の相互理解を深め、教育の質向上のための FD 活動になっている点は評価できる [0604a、0604b]。
0605	広範な分野や方法論の多様な教員配置がなされており、本研究科の特徴となっている [0602a]。
留意点	
* 各項に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項
0605	教員組織の適切性について、定期的に自己点検を行い、その結果を改善につなげていく仕組みが確認できない。2 つの学部のバランスを考慮した定期的な点検をする仕組みが必要である。【B】

根拠資料 No.		ピアレビュー受審時に追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料 △ : 現部署で保管

2020 年度 (対象年度 : 2018~2019 年度) ピアレビュー報告書 (案)

評価対象組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 7	学生支援
------	------

総評
<p>0702 学生の修学に関する支援として、学内進学者向けに海外語学研修を用意するとともに、留学生に対しては、「日本語論文の書き方 I・II」の授業や、国際センターと連携した日本語支援プログラムを実施するなど、手厚い支援を行っている [0702a] [0702b] [0702c] [0702d]。</p> <p>0702 主担当 1 名、副担当 2 名による指導教授制の下で、支援の必要が生じた際には何れかの教員に相談できる体制としている。</p> <p>0702 学生主体による編集委員会にて、「国際人間フォーラム」を年 1 回刊行しており、学生の研究活動成果を示す場を設けている [0702e]。</p>
長所・特色
<p>0702 留学生を対象とした修学上の支援が手厚く行われている点は評価できる [0702c] [0702d]。</p> <p>0702 3名の指導教員の下で、必要な支援が行われる体制が取られていることは評価できる。</p> <p>0702 学生主体による編集委員会にて、「国際人間フォーラム」を年1 回刊行しており、学生の研究活動成果を示す場を設けている点は評価できる [0702e]。</p>
留意点
<p>*各項に留意点レベルを記入</p> <p style="margin-left: 100px;">【A】・・・緊急の改善を要する事項</p> <p style="margin-left: 100px;">【B】・・・検討を要する事項</p>
特になし

根拠資料 No.		ピアレビュー受審時に追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0702	f	2020 年度 TA 採用決定通知	○

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料 △ : 現部署で保管

ピアレビュー委員会 (第 1 部会)

2020 年度 (対象年度 : 2018~2019 年度) ピアレビュー報告書 (案)

評価対象組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 9	社会連携・社会貢献
------	-----------

総評
<p>0902 内外、とりわけ海外の研究者を招いてシンポジウムや講演会を実施していることは、国際連携(国際交流)活動として確認できる[0902a][0902b][0902c][0902d][0902e]。</p> <p>0902 国際人間学研究所主催のプロジェクトに参加して、地域の身近な課題に関するシンポジウムを行ったことは、地域連携活動の一つの望ましい姿として認められる[0902f]。</p> <p>0902 国際学術交流協定を活用して海外の学会や調査に、学生も含めて参加している[0902g][0902h]。</p> <p>0902 海外の研究者の講演会やシンポジウムは、本学来訪を機とした場合が大半であり、体系的や計画性が乏しい。</p> <p>0902 学術的な国際交流活動に関する記録(参加人数、学生・教員・外部参加者の内訳など)が確認できない。</p> <p>0902 活動の結果を、その記録にもとづいて検証するシステム(組織や仕組み)が確認できない。</p> <p>0902 多くの教員の社会貢献活動がある事実は確認できるが、それが個別活動に終わり組織としての共有が確認できない[0902j]。</p>
長所・特色
<p>0902 内外、とりわけ海外の研究者を招いてシンポジウムや講演会を実施していることは、国際連携(国際交流)活動として、高く評価できる[0902a][0902b][0902c][0902d][0902e]。</p> <p>0902 国際人間学研究所主催のプロジェクトに参加して、地域の身近な課題に関するシンポジウムを行ったことは、地域連携活動の一つの望ましい姿であり、評価できる[0902f]。</p> <p>0902 国際学術交流協定を活用して、海外の学会や調査に、学生も含めて参加していることは、評価できる[0902g][0902h]。</p>
留意点
<p>*各項に留意点レベルを記入</p> <p style="padding-left: 40px;">【A】・・・緊急の改善を要する事項</p> <p style="padding-left: 40px;">【B】・・・検討を要する事項</p> <p>0902 海外の研究者の講演会やシンポジウムは、本学来訪を機とした場合が大半であり、体系的や計画性が乏しい。組織として、一定の系統性をもった計画的企画が必要である。【B】</p> <p>0902 学術的な国際交流活動に関する記録(参加人数、学生・教員・外部参加者の内訳等)を残しその検証の資料とする必要がある。【B】</p> <p>0902 活動の結果を、その記録にもとづいて検証するシステム(組織や仕組み)を設ける必要がある。【B】</p> <p>0902 多くの教員の社会貢献活動が個別活動に終わり、組織としての共有と位置付けが必要である[0902j]。【B】</p>

根拠資料 No.		ピアレビュー受審時に追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0902	i	2019 年度 F D 活動評価点検報告書	○
0902	j	2019 年度学外兼務実態調査 (地域連携・地域貢献関係)	○

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料 △ : 現部署で保管

ピアレビュー委員会 (第 1 部会)

2020 年度 (対象年度 : 2018-2019 年度) ピアレビュー報告書 (案)

評価対象組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

総評	
1120	専攻主任連絡会・研究科委員会について毎回開催通知・議事録作成をおこなっている[1120a][1120b][1120c]。 1120 各専攻の会議について、言語文化専攻に関しては3コースから成るため、各コースに連絡担当者を置き、専攻主任が検討事項や依頼事項をメール連絡し、メール上での意見交換を行い、メール文面を保存して議事録に代えている[1120d]。歴史学・地理学専攻では歴史地理学科の学科会議とあわせて専攻会議をおこない、議事録を作成している[1120e]。国際関係学専攻では専攻会議をメール審議でおこなっている。心理学専攻では専攻会議をおこない、議事録を作成している[1120f]。 1120 専攻内の委員会等については、言語文化専攻に関してはコース連絡担当以外の委員会を設けていないが、今後研究科のアカデミック広報誌『GLOCAL』の編集委員会や Web ページ委員会など、これまで個人の努力に依存していた業務内容をシステムティックに担う委員会の設置を検討する必要がある。他の3専攻では特に委員会は設けていない。
長所・特色	
特になし	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項	
1120	業務内容の点検のために重要な役割を果たすものの一つが、各専攻の議事録である。歴史学・地理学専攻、心理学専攻では、議事録を作成しているが、まだ作成していない専攻があるなど、改善の余地が見受けられる。今後全専攻が議事録を作成し、業務内容を毎年評価することで、国際人間学研究科がさらに発展することを期待する[1120d][1120e][1120f]。 【B】
1120	専攻内の委員会等については、言語文化専攻では、今後研究科のアカデミック広報誌『GLOCAL』の編集委員会や Web ページ委員会などの設立を計画されており、ぜひ実現されることを期待する。また他の3専攻に関しても、専攻・研究科の発展につながる計画の企画など、情報交換だけでなく組織として運営していくための体制づくり、委員会規定の制定、委員会の業務内容等の検討、充実を図ることが望まれる。【B】

根拠資料No.		ピアレビュー受審時に追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料 △ : 現部署で保管